

「健やかな 未来のために がん検診」

2011年度のがん征圧スローガン決まる

長野の河原崎さん・山形の市田さん 2人が同じスローガン

2011年度の日本対がん協会のがん征圧スローガンが決まりました。最優秀賞は「健やかな 未来のために がん検診」。山形県結核成人病予防協会（山形県支部）の市田直美さんと、長野県健康づくり事業団（長野県支部）の河原崎清栄さんの2人が同じ作品を

応募。審査委員会で優秀賞に選ばれました。がん征圧月間の9月に鹿児島市で開催される「がん征圧全国大会」で表彰されます。

日本対がん協会が全国の支部に公募したところ、147の作品が寄せられました。東日本大震災前の募集でしたが、対がん協会内の審査

委員会では、震災を配慮したほうがいいのでは、という声もありました。こうした点を踏まえ、審査委員会で

厳正な投票を行った結果、市田さんと河原崎さんがそれぞれに応募された作品が最優秀に決まりました。

「支部」の呼称認めます

日本対がん協会は3月10日の理事会で、「日本対がん協会グループに関する規程」を改め、「支部」という呼称を使うことに決めた。これまで内閣府は、新しい公益法人制度では、完全に独立した法人同士の間では「支部」の呼称を使えないとしていたが、その解釈が変更されこれを受けて改定した。

全国の46提携団体は日本対がん協会と「がん征圧活動に関する覚書」を交わして協会支部としての役割を担い、対がん協会グループとして活動を展開することになる。定款での規定の仕方、覚書の内容・締結時期などについては対がん協会がモデル(例示)を示し、必要に応じて協議する。

ただし、対がん協会と各支部団体は完全な別法人であるため、同一団体と誤解される表記は避ける必要がある。「日本対がん協会〇〇県支部」という名称だけでなく、各支部の正式名称(例・〇〇県〇〇センター)の併記が求められる。

優秀作品は次の通りです。(応募者の敬称略)

- 「受けておこう 元気なときこそ がん検診」
(青森 小野里子)
- 「始めよう 未来へ繋がる がん検診」
(宮城 鳥井由美)
- 「後にせず まずは自ら がん検診！」
(千葉 室蘭正廣)
- 「がん検診 受けて始まる がん予防」
(長崎 千場知美)
- 「がん検診 受けて安心 あなたの未来」
(鹿児島 関根正三)

女子大生たちのグループ

リボンムーブメントが新たな子宮頸がん啓発冊子 大学の新生らに配布へ

首都圏を中心に子宮頸がんの啓発活動を行っている「リボンムーブメント」の女子大生たちが、子宮頸がん啓発冊子「yell (エール)」をつくった=写真。昨年作成した「Teal」に続く第2弾。同世代に向けたメッセージで、子宮頸がんについて分かりやすく解説しているとともに、ふだんから婦人科に気軽にかかって健康を保つよう、アドバイスしている。

テーマは「今のわたしが未来を生きる」。いま健康を守っておかないと将来の自分がどうなるか。それを

考えてもらおうという狙いで、健康づくりを「応援」している。

20代で子宮頸がんを体験した阿南里恵さんに取材し、告知のことや、治療のことなどを紹介。「みんなにも先々の幸せを考えてもらいたい」という阿南さんの強い願いを込めている。

日々、子宮頸がんの治療にあたっている宮城悦子・横浜市立大学病院化学療法センター長や、各国の子宮頸がん対策を研究しているシャロン・ハンリー日本赤十字北海道看護大学准教授にもインタビューしてい

る。リボンムーブメントのメンバーの女子大生4人が「素敵な女性になる」ことについてディスカッションしたり、婦人科を受診した「ルポ」を掲載したりしている。

女子大生たちは、この冊子を今春入学する大学生たちに配布し、子宮頸がんについて知ってもらう活動を行う。

「yell」は、B5判12ページ。表紙には、その形から、子宮頸が

んの原因となるヒトパピローマウイルス (HPV) に見立てた金平糖を、子宮頸がん啓発のティール&ホワイトリボンをあしらっている。問い合わせは、日本対がん協会子宮頸がんキャンペーン係 (電話03-5218-4771) へ。

